

審議（会議）結果

審議会名称 第16期第4回神奈川県生涯学習審議会

開催日時 令和6年7月26日（金）9時30分～11時30分

開催場所 神奈川県庁東庁舎11階会議室

出席者【会長・副会長等】

伊藤 真木子（青山学院大学教授）【副会長】
遠藤 昌司（神奈川県公立小学校長会総務部長）
大橋 昌行（一般社団法人神奈川県経営者協会人材活性化委員）
小池 茂子（聖学院大学長）【会長】
後藤 梢（神奈川県PTA協議会執行役員）
杉下 由輝（公募委員）
夏井 美幸（神奈川県公民館連絡協議会長）
野内 みつえ（神奈川県議会議員）
八巻 義徳（公募委員）
山崎 真理子（特定非営利活動法人かながわ女性会議会員）
吉原 弘子（神奈川県社会教育委員連絡協議会理事）
※五十音順

次回開催予定日 未定

所属名、担当者名 生涯学習課 田村、奥田、沢

掲載形式 議事録

議事概要とした理由 ー

審議（会議）経過

- 1 開会＜事務局＞
- 2 あいさつ＜生涯学習部長＞
- 3 議題 県立学校における地域学校協働活動の推進について

○小池会長

皆様、おはようございます。第16期の生涯学習審議会は本日の第4回の会議をもって、最終回ということになります。

今日、新たに委員として御参加いただいた委員の皆様も、現場で様々な専門性を持って御活躍であると承っています。今日は、私たちがこれまで「県立学校における地域学校協働活動の推進」について、意見を交換して話し合いをしてきたことを、まとめていく作業になりますので、まとめの記録、あるいは資料を御覧いただき、遠慮なく御意見をいただ

43 きたいと思っています。せっかくなので、遠藤委員から、3名の方に自己紹介をお願いし
44 てよろしいですか。

45 ○遠藤委員

46 おはようございます。今年度より県の公立小学校長会総務部長を務めております遠藤と
47 申します。神奈川県で、教員をやっけていまして、大和市で教員を続けております。行政と
48 の人事交流で、3年ほど紅葉坂の県立青少年センターでお世話になったこともあります。
49 少し前には3年間、市の教育委員会の学校教育課で人事を担当しておりました。こちら
50 方には、市町村の教員としてはお伺いする機会は少なく、初めてなのでまとまった御意見
51 を出せるかわかりませんが、本日は県の公立小学校長会の一員として、精一杯努力いたし
52 ますので、よろしく願いいたします。

53 ○小池会長

54 ありがとうございます。続きまして神奈川県PTA協議会執行役員の後藤様、どうぞ御
55 挨拶をお願いいたします。

56 ○後藤委員

57 神奈川県PTA協議会の執行役員の後藤と申します。PTAに携わって約5年になりました。
58 県の方に出てきて、約3年経ちまして、いろいろとやりたいことも出てきましたが、
59 この審議会は今日が最終回なのでですね。

60 ○小池会長

61 そうですね。ただ、任期は11月までです。今日の審議を踏まえて、もう一度最終的な審
62 議会としての意見を教育委員会に出しますので、お気付きの点がございましたら、遠慮な
63 く御発言いただきたいと思います。

64 ○後藤委員

65 はい。よろしく願いいたします。

66 ○小池会長

67 続きまして神奈川県社会教育委員連絡協議会の理事の吉原委員。どうぞ御挨拶をお願い
68 いたします。

69 ○吉原委員

70 御紹介があったように、私は神奈川県社会教育委員連絡協議会の理事を務めさせてい
71 ただいており、私自身は茅ヶ崎市の社会教育委員の代表として、理事として出席していま
72 す。私自身は地域団体を持っていませんが、地域の中で、長いこと地域の児童・生徒、高
73 校生と、いろいろ関わりを持たせていただきました。今回のお話を伺って、前任者の後任
74 に果たして私が務まるかと心配しましたが、小池会長、伊藤副会長とは社会教育委員会議
75 の方で顔を存じ上げておりますので、私にできることがあればと思い参加しました。未
76 熟ではございますが、皆さんと一緒に、県の子どものたちのことをどうしたら良いのか、意
77 見交換をさせていただいて、子どもたちが本当に笑顔で元気で毎日過ごせるような地域に
78 なれば良いと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

79 ○小池会長

80 ありがとうございます。それでは、皆さん資料1を御覧ください。これまで本審議会
81 が、「県立学校における地域学校協働活動の推進について」というテーマで話し合いを進
82 んできましたことを、事務局の方で資料1にまとめてくださいました。私たちが議論した
83 こと、意見として提出したこと、あるいは課題として取り上げるべきであると提言したこ
84 とがまとめられていますので、事務局から説明いただきたいと思います。よろしく願い

85 します。

86 ○事務局

87 それでは御説明いたします。お手元の「資料1」を御覧ください。

88 この資料は、第16期生涯学習審議会において、これまで御審議いただいた内容を、項目
89 別にまとめたものです。

90 はじめに、「1」のまえがきでは、地域学校協働活動の概要について、まとめております。

91 まず、地域学校協働活動の定義ですが、地域学校協働活動とは、地域住民や団体等の参
92 画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づ
93 くり」を目指して、学校と地域が相互に連携・協働して行う様々な活動のことを指します。

94 そしてこの活動は、社会教育法に位置付けられており、当審議会でも第13期に審議し、
95 答申をまとめております。

96 現在は県立学校においても、地域イベントの企画や運営など、様々な活動に取り組んで
97 おり、こうした活動の推進により、生徒の自己肯定感の向上や地域活性化などが期待され
98 ています。一方で課題もあります。

99 そこで、第16期生涯学習審議会においては「県立学校における地域学校協働活動につい
100 て」をテーマとして、取組のさらなる推進や継続を図るための方策等について御審議いた
101 だっている次第でございます。

102 次に、「2」の「県立学校における地域学校協働活動の推進に係る『課題』に関する意見」
103 を御覧ください。ここでは、地域学校協働活動の推進における「課題」に関する委員の皆
104 様からの御意見を大きく3つに大別しております。

105 まず(1)「県立学校における地域学校協働活動の意義に関する理解不足」を御覧ください
106 い。ここでは、1ポツ目と2ポツ目に記載のとおり、学校側の負担や地域と県立学校の連
107 携イメージの難しさなどの課題が挙げられており、3ポツ目に記載のとおり、地域と学校
108 がWin-Winの関係となるよう取り組む必要があるとの御意見をいただきました。

109 また、4ポツ目に記載の、行政側の意義の理解や熱意の差による活動の推進の差や、5
110 ポツ目に記載のとおり、学校現場における経験の有無などにより活動を躊躇してしまうこ
111 となどの課題が挙げられ、6～8ポツ目に記載のとおり、高校生の人と違った経験や知識
112 を得たいという気持ちや主体性を発揮させ、自由な発想に対する支えを構築していくべき
113 との御意見をいただきました。

114 次に(2)「地域学校協働活動の推進に係る地域人材の不足」を御覧ください。こちらで
115 は、1ポツ目に記載のとおり、地域社会の担い手が減少していること、2ポツ目に記載の
116 とおり、教職員のモチベーションを向上させるための働き方改革が必要であること、3ポ
117 ツ目と4ポツ目に記載のとおり、学校側がコーディネーターを発掘するのは困難であるこ
118 と、ページをおめくりいただいて、上から1ポツ目と2ポツ目に記載のとおり、学校長や
119 教職員が地域とのつながりを作り保つことが困難であること、3ポツ目と4ポツ目に記載
120 のとおり、ボランティアが課題解決を図るのは負担が大きく、地域コーディネーター役と
121 して無償で頼る現状は改善すべきとの御意見をいただきました。

122 続いて(3)「県立学校と地域住民との『地縁的つながり』の希薄さ」を御覧ください。
123 ここでは、1ポツ目に記載のとおり、県立学校は小中学校よりも地域と学校の結び付きが
124 弱いことや、2ポツ目に記載のとおり、世代間交流の機会が失われていること、3ポツ目
125 に記載のとおり、小中学校のPTAでは、県立学校との連携が視野に入っていないこと、
126 4ポツ目と5ポツ目に記載のとおり、公民館の直接的な連携活動が少なく、単発的に終わ

127 っていること、6ポツ目に記載の、生徒の興味があることの取り上げ方や地域へのつなげ
128 方、7ポツ目に記載のとおり、学校ごとに異なる事情を念頭に置いた議論が必要であるこ
129 とが課題として挙げられました。

130 続きまして、「3」の「課題への『対応案』に関する意見」を御覧ください。こちらは、
131 「2」の「課題」にできるだけ対応させる形で、3つに分類しております。

132 なお、各項目には、末尾に関連する参考事例を紹介しております。こちらは、4ページ
133 から始まる「5.参考事例」に詳細を記載しておりますので、適宜御参照ください。

134 それでは、2ページにお戻りいただいて、「3」の「課題への『対応案』に関する意見」
135 について、各項目を御説明させていただきます。

136 まず、(1)『『県立学校』ならではの地域学校協働活動の意義の発信』を御覧ください。
137 こちらは、「課題」の(1)「意義に関する理解不足」に対応する形で立項しております。こ
138 こでは、1ポツ目に記載のとおり、教育委員会が研修を行い、大人社会の責任や意識改革
139 について伝えていくことや、2ポツ目に記載の、「地域学校協働活動ボランティアハンドブ
140 ック」の改訂、3ポツ目に記載のとおり、学校ごとに課題や要望等を整理し発信すること、
141 4ポツ目に記載の、「総合教育会議」などを活用した行政のリーダーシップの発揮などにつ
142 いて、御意見をいただきました。

143 ページをおめくりいただいて、次に(2)「地域人材の発掘・育成」を御覧ください。こ
144 ちらは「課題」の(2)「地域人材の不足」に対応する形で立項しております。ここでは、
145 教員採用方法について、1ポツ目と2ポツ目に記載のとおり、過去の地域連携活動の取組
146 実績を重視することや、民間企業経験者を採用していくことが挙げられました。また、3
147 ポツ目に記載の、教職員を評価するシステムの位置付け、4ポツ目に記載の、行政職員の
148 増員、5ポツ目に記載の、地域活動に主体的な人材向けの研修の充実、6ポツ目に記載の、
149 コーディネーターを増やすための子ども関連の役職経験者や学校OB・OGとの連携、7
150 ポツ目に記載の、コーディネーターの広域的な開拓、8ポツ目に記載のとおり、大人社会
151 の側が、学生が地域と連携できるような仕組みをつくることの重要性をテーマに取り上げ
152 た研修を行うこと、9ポツ目に記載のとおり、教職員の初任者研修・中堅職員研修や公民
153 館での地域人材の研修において地域活動を周知すること、10ポツ目に記載のとおり、「テ
154 ーマ・コミュニティ」と連携していくことなどについて、御意見をいただきました。

155 続いて(3)「県立学校と地域住民が連携するための仕組みづくり」を御覧ください。こ
156 ちらは、「課題」の(3)「地縁的つながりの希薄さ」に対応する形で立項しております。こ
157 こでは、1ポツ目に記載のとおり、県立学校と地域住民が連携するために、まずは教育委
158 員会がコーディネーターを養成・派遣しノウハウをまとめること、2ポツ目に記載のと
159 おり、県や市町村が地域と学校の仲介役となること、3ポツ目に記載のとおり、公民館を人
160 材バンクのような情報発信機関として連携していくこと、4ポツ目に記載のとおり、テ
161 マで活動する地域コーディネーターをデータベース化すること、5ポツ目に記載のと
162 求める地域学校協働活動推進員のビジョンを調査し推進員の例を明示すること、6ポツ目
163 に記載のとおり、各学校にコーディネーター的役割を担うキャリアコンサルタントを配置
164 すること、7ポツ目に記載のとおり、地域住民と教員やコーディネーターが交流できる事
165 業を県主催でも行うこと、8ポツ目に記載のとおり、高校のPTAに対して地域の結び付
166 きを促進するための啓発活動を行うこと、9ポツ目に記載のとおり、学校の同窓会と連携
167 すること、ページをおめくりいただいて、上から1ポツ目と2ポツ目に記載のとおり、民
168 間企業や地域の自治会長などと連携していくことなどについて、御意見をいただきました。

169 最後に、「4」の総括です。県立学校は、義務教育学校とは異なり「学区」がなく、「地
170 域で生まれた子どもたちが通う学校」ではないため、近隣にお住まいの方々が、学校との「地
171 縁的なつながり」をイメージしにくい現状があります。

172 また、高校生の場合は、義務教育段階の児童・生徒と違い、「大人から守られる存在」とい
173 うよりも「数年後には大人になる存在」です。よって、キャリア教育を推進する観点や、
174 社会参加型の活動の充実が重要となります。地域学校協働活動には「地域課題の解決のため
175 に、地域の方々とともに活動する」といった意義があり、地域と学校とが「Win-Win」の
176 関係となり得るものであります。

177 そうした意味では、県立学校における地域学校協働活動に係る「地域」に関しては、町
178 内会・自治会等をはじめとする「地域コミュニティ」だけに限らずに、いわゆる、「テー
179 マ・コミュニティ」との協働活動も視野に入れて考えることが望ましいです。

180 さらに、県立学校においては、地域学校協働活動推進員が置かれていなくても、地域の
181 方々と連携した活動に取り組んでいる事例もごございます。そうした個々の取組にも注目し、
182 県立学校と地域との連携による活動の裾野を広げていくことも大切であります。以上で、
183 資料の説明を終わります。

184 ○小池会長

185 ありがとうございます。今回は、諮問に対して政策提言である答申をまとめ、県の教
186 育委員会に提出するというのではなく、私たちが審議会の中でテーマについて課題と今
187 後の解決の方策を整理して、次の様々な会議体等の資料としていく形でまとめて、県の教
188 育委員会に示すことが求められています。今、御説明をいただいて、県ではどのように取
189 組を今後進めていくのか、補足の説明があれば、お願いをしたいと思います。

190 ○事務局

191 それでは生涯学習課長から少しだけ補足させていただきます。説明の冒頭でもお話をい
192 たしましたが、県立学校ではこれまでも、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地
193 域と学校がお互いに連携・協働しながら、様々な活動に取り組んできておりますが、一方
194 で課題もごございます。そこで、この取組をさらに進めるために、実際の現場に精通された
195 委員の皆様から、いろいろな御意見を伺いながら、今後の取組を検討するため、県立学校
196 における地域学校協働活動について、これまで御審議をお願いして参りました。県教育委
197 員会といたしましては、委員の皆様からいただきました御意見を踏まえまして、現在取り
198 組んでいる事業、取組の改善をはじめ、地域と学校とのつながりを強化できるよう、さら
199 に取組を進めて参りたいと考えております。

200 具体的には、委員の皆様からいただきました、課題の対応策に関する御意見を踏まえま
201 して、まずは地域の皆様と学校との双方に、県立学校における地域学校協働活動への理解
202 を深めていただくため、今後、県立学校ならではの活動の意義等を整理いたしまして、こ
203 れを周知していくように検討して参りたいと考えております。

204 また、地域にいらっしゃる人材の育成につながるよう、子どもは研修内容の充実を図り
205 まして、また多くの方々に参加していただけるよう、受講の促進に取り組んでいくととも
206 に、地域の皆様と県立学校との連携やつながりづくりに向けて、様々な活動例、好事例に
207 関する情報を発信して、地域と県立学校との協働活動に関する機運の醸成を図ることがで
208 きるよう、取組を検討して参りたいと考えております。補足は以上でごございます。

209 ○小池会長

210 ありがとうございます。このような形でまとめていき、次の会議体に、これを資料と

211 して活用していただくと方向で、県が進めてくださるということでございます。

212 細かいところですが、一般的に「まえがき」のところには数字は入れないので、項番が
213 ずれていくかと思えます。そのため2から1になるかと思えますが、まずは、「県立学校
214 における地域学校協働活動の推進に係る課題に関する意見」がありました。

215 課題を集約していくと、(1)の部分、県立学校には地域密着型学校ではないという特
216 性があるがゆえに、地域と県立学校が協働してやっていかなければいけないという前提に
217 クエスチョンマークがある。そうした協働活動の理解不足から発する課題があるというこ
218 とでした。そして(2)の部分、県立の様々な高等学校あるいは特別支援学校、中等教育
219 学校の、協働活動に係る地域人材については、地域密着型の小中学校の場合より見つける
220 ことが難しいとあります。それを誰に求めていくのか、この審議会では議論がされてきま
221 ました。そして(3)の部分、県立学校という特性がゆえに、地域住民との地縁的なつなが
222 りづくりが難しいという点がありました。学区の小中学校に地域の子どもが行っていて、
223 そこに住民が協力をしていく図式は簡単ですが、県立学校の場合はそうした地縁的なつな
224 がりを作ることは難しいとの意見が、何度も繰り返してありました。

225 そして、2ページ目の、今3となっているところ、課題に対してどのような解決策があ
226 るか、皆様から事例の紹介とともにいただいた意見です。(1)では、県立学校と地縁的
227 な地域との協働活動は難しいが、県立学校ならではの地域学校協働活動の意義の発信に糸
228 口があるのではないかということが、2ページ目から3ページ目の方に書かれています。
229 参考事例が一番後ろに紹介されていますが、貴重な先進的な取組として、皆様から御紹介
230 いただいたことが記されております。そして、(2)では、地域人材の発掘や育成の可能
231 性はどこに見いだせるのかがまとめられています。(3)では、県立学校と地域住民が連
232 携するためのシステムをどのように作っていくのか、具体的な御意見が記されています。
233 誰かが自然発生的にボランティアをするだけでなく、自治体がそういったシステムを作
234 り、介入して、牽引していく形の支援が必要なのではないかとということでございます。

235 そして「4.総括」は、今回の審議会で検討され、大切であるとわかったことについて、
236 行政に提言していきたいという総括となっています。

237 それでは、1つ1つ見ていくのは難しいと思えますが、皆さんが日頃活動されているフ
238 ィールドから、あるいは、生涯学習審議会のメンバーとして広い見識をお持ちでいらっし
239 ゃる皆さんから御意見を賜りたいと思えます。県立学校における地域学校協働活動の推進
240 に関わる課題に関する意見というところで、何かお気付きの点で、書き加えるべきだとい
241 う御意見があれば承りたいと思えます。これが最終の審議になりますので、さらに深めて
242 いくための御意見も承りたいです。杉下委員お願いいたします。

243 ○杉下委員

244 全体的なことですが、前回の会議から県立学校の現場に直接関わったので、参考になれ
245 ばと思ひ発言します。地域活動として郷土文化の片瀬こまについて取組をしている中で、
246 藤沢市の藤沢翔陵高校と連携しています。藤沢市では毎年5月末に産業フェアがあり、そ
247 ちらに高校のブースを出していますが、そのブースの1つで片瀬こまを出しています。地
248 域の人にも取組を知ってもらい、話のきっかけや接点が増える効果を感じています。

249 今までは私も一緒に行っていたのですが、事前に学校に行って、片瀬こまや地域の郷土
250 文化の授業をして、当日は一步引いて、子どもたちが主体的に動けるようにしました。我々
251 が質問に答えてしまうと子どもたちの学びも少なく、地域の人と話す機会が減ってしまう
252 ので、今年から、子どもたちを前に出して、説明しきれないときに私たちのメンバーが出

253 てフォローして、子どもたちを良い意味で後ろから押す形で取り組みました。
254 また、県立高校ではないですが、通信制高校の湘南一ツ星高等学院とも交流しています。
255 開校から日が浅く、地域交流を積極的にやりたいが、どこにお願いして良いか分からない
256 とのことでした。実は私は今、地域活動を20団体ぐらいやってしまして、高校の授業で、
257 地域活動の話をする際、肩書きを「地域活動家」と名付けられました。活動を実際にやっ
258 てみて感じる魅力を話しながら、そこからさらに枝葉で10人、20人と紹介できるというこ
259 とで、初めて「地域活動家」と紹介していただきました。学校側としても、1人で複数の
260 枝葉ができるような人を探していきたいようでした。NPOを支援するNPOや、市民活
261 動やボランティア、地域連携するコーディネーターを支援するコーディネーターのよう
262 ところとつながると、一気に広がりがあるかと思えます。

263 最後に、先月桐蔭横浜大学で「ボランティア論」の授業をしました。大学でも、生徒に
264 地域へ出てもらおうというときに、学校側としても情報をすべて集約しきれないというこ
265 とでした。講演の中で、いろいろなボランティアの団体に話をしに来てもらい、学生が興
266 味のあるところに自分から手を挙げていく形で、SNSやインターネットで調べただけで
267 は伝わりにくいところも、地域団体の事例発表によって生の声から聞く授業でした。当日
268 説明リレーをやることによって、また、実際に子どもたちが関心あることを質問すること
269 によって、自ら動こうと思える機会を授業に取り入れるのも面白いと感じました。以上で
270 す。

271 ○小池会長

272 ありがとうございます。今の杉下委員の御意見には具体性がありますが、資料の中のど
273 こに結びつけていけばよいでしょうか。例えば、最後のボランティア論については、2ペ
274 ージの「県立学校ならではの地域学校協働活動の意義の発信」で、探究学習が出てきてい
275 ます。若い世代が、様々な経験をしたいという思いが高まっているというところに、大人
276 が関われることをもっと書き込むべきでしょうか。

277 ○杉下委員

278 まず1つ目の藤沢翔陵高校のところに関して言えば、対応案の(3)「県立学校と地域
279 住民の連携の仕組みづくり」のところの後方支援を行う、そしてその前段には、予備知識
280 を身に付けてもらうために授業を行うというのがあるかと思えます。2つ目の、私に「地
281 域活動家」と名前がつけられたことは、(2)の「地域人材の発掘・育成」に関して、複数
282 を紹介できるコーディネーター的な方の名称を作ることによって、効率的にそのコーデ
283 ニーターを活用できることを追記できるかと思えます。

284 大学の授業に関しては、(1)の「『県立学校』ならではの地域学校協働活動の意義の発
285 信」で、連携先について知る機会の場を、授業的に事前に、実際に活動する団体に来ても
286 らって事例紹介を組み込む形でやったらどうかというところで、意見を整理させていただ
287 きたいです。

288 ○小池会長

289 そうですね。民間で地域と学校を結んでくれる能力を持っている方たち、いわゆるコー
290 ディネーターを、行政が認証して、その方たちのやっていることを学校に受け入れてもら
291 えるような制度等を整えることは、3ページのところの(2)「地域人材の発掘・育成」に
292 おいて行政ができることとして新たに組み入れられます。参考意見として記録をお願いし
293 たいと思います。

294 通信制高校についてはどこかに書き込めますか。県立高校で通信制の学校はありますか。

295 ○事務局

296 多くはないのですが、ございます。

297 ○小池会長

298 そういうところに、学校の先生たちだけではなく、住民が出張講義、探究の学習、ボラ
299 ンティア活動というような形で、実社会の人間や異世代の大人たちが子どもたちを育てて
300 いくという意味において入っていくことができます。育ち合う力を持っている方たちによ
301 って、通信制の子どもたちの良いものが引き出されていく可能性があるということです。

302 地縁だけではなく、そういった「通信」という方法論を使って、県立学校で学ぶ人たち
303 への支援ができるのではないかと、地域学校協働活動の県立学校との意義の発信ということ
304 で、御意見がございました。

305 遠藤委員は今日が初めてですが、校長先生として、何かお考えやお気付きの点があれば
306 教えてください。

307 ○遠藤委員

308 私、神奈川県民になって55年になるのですが、自分の住んでいた地域の徒歩30分ぐら
309 のところに県立高校がありました。特に関わりがあったわけではないのですが「あそこは
310 県立高校だ」と住民として認識していた記憶があります。学区内や学区に隣接した辺りに
311 県立高校がある学校で勤務した経験もありますが、実際に県立高校との関わりはありませ
312 んでした。前任校は市の中学校ごとにある活性化会議が盛んで、学区の小中学校に、県立
313 高校の校長先生もいらして会議に出席されていました。

314 ただ、やはり活動については、義務教育と県立高校では、違うところも出てくると思
315 います。小中学校であれば地域のグランドデザイン等を御提示する中で、「うちの学校の子
316 どもたちが、未来の地域の人材です」と位置付けています。一方で県立学校は、地域の子
317 どもたちだけではないところがあるので、難しく感じたのが正直な意見です。

318 ○小池会長

319 遠藤委員がおっしゃるとおりで、県立学校と地域との連携は、地域の子が通う親近感の
320 ある学校とは違ってきます。広域からその学校を目指して、生徒が集まっています。

321 それを支えていく地域の可能性をどう作るかが今回のテーマですが、現場としては難し
322 いですか。

323 ○遠藤委員

324 現場としては、あまり事例を目にしたことはないです。

325 ○小池会長

326 わかりました。ありがとうございます。他に何か御発言いただきたいと思います。最終
327 提言、まとめについて、ここの文はこう書いた方が良いのではないかと、という形で御意見
328 賜りたいと思いますが、いかがでしょうか。伊藤委員お願いいたします。

329 ○伊藤副会長

330 「県立学校と地域住民」と書くと、学校という組織とつながるという文面にならざるを
331 えないのだとは思いますが、生徒とつながることを考えると、もう少しつながりやすさ、
332 提案のしやすさが出ると思います。

333 例えば、大和駅を利用している高校生が駅前開発にどう関わるか、ということであれば、
334 学校経由でなくても、高校生に呼びかけ、高校生が手を挙げて、地域とつながることがで
335 けると思います。審議会のテーマが「県立学校における」なので、ここでは組織的なつながり
336 方を議論するのが筋なのだと思いますが、高校生が、個人として、自分の意志で、学校や先

337 生を介さず、成績も関係なく、地域の人たちとつながる場面を提案できたら良い、そういった
338 文面が入ると良いと思いました。

339 ○小池会長

340 今の御意見は、資料の「課題に関する意見」の(1)「地域学校協働活動の意義に関する
341 理解不足」部分に該当する意見かと思います。

342 会議の中でもありましたが、システムを作る、学校と地域がどうするかという話ではな
343 く、最終的に、そこに通っている若い人たちを私たちがどのように成長させていくかが重
344 要です。その点を一生懸命やっていくプログラムがあれば、おのずとそれが学校と地域の
345 連携という形になります。学校にいる生徒たちが主体的に、地域や大人社会の人間とつな
346 がっていききっかけを生み出すところから始め、その中から連携が出てくる発想です。生
347 徒の主体性を発揮させるきっかけを生み出すためには、地域、自分の学校、自分自身のつ
348 ながりを認識してもらえ仕掛けを構築することが必要なもので、これをもっと前面に押し
349 出して書いていくべきという御意見でした。

350 ○伊藤副会長

351 全面的な訂正になるので、「無い」と思いますが、敢えて言うと、3ページの(3)は「学校
352 と地域住民」ではなく、「高校生と地域住民」にできないでしょうか。そのために、学校のみな
353 らず、公民館や地域の団体等がサポートする、という形を考えることができた方が良いのでは
354 ないでしょうか。

355 ○小池会長

356 高校生だけで自立的にやっていくことができるかというところで、そのきっかけを作る
357 のは学校なのか社会教育なのか、難しいところです。今回の生涯学習審議会のテーマは「県
358 立学校」なので、(3)もその括りなのではないでしょうか。

359 でも、おっしゃるとおり、学校という枠組みを大前提として考えるより、そこにいる若
360 い人たちを、様々な社会人が関わって育てていくことが、学ぶ人たちの可能性を引き出す
361 ことにつながります。

362 生徒の主体性を育み、その生徒が主体的に地域と交わっていくことができれば、結果、
363 学校と地域の連携が生まれる。その部分をどう書くかですね。総括の最初の考え方のとこ
364 ろに、それを打ち出しますか。

365 学校とはいうものの、結局は人の問題だということですよ。それに、地域のボランテ
366 ィア、志のあるOB、様々な形で、いかに大人社会が関わっていくかということですよ。

367 それができなければ、おのずと学校と地域が一緒になって、若い人たちの育ちを支える
368 関係ができる。そのことが学校と地域の連携であると、今回捉えると書けば良いですね。
369 総括の最初に、私たちの審議会では、テーマとしてはこういうものをいただいたが、やは
370 り大切なのはその部分であると理解しましたと書きましょうか。

371 今、枠組みとして学校があり、そこに生徒たちがいます。そこで大人社会の人たちと連
372 携していくことで、生徒そのものが主体的に、学校の枠を乗り越えて、地域の問題解決型
373 のプログラムに参加していくことができれば、地域との連携ができるという発想です。

374 しかし、それをやるためにはコーディネーターをしてくれる大人社会の助け手が必要で
375 あり、そのような方を認証していくことが行政の仕組み、仕事であるという意見です。

376 遠藤委員、いかがでしょうか。学校は制度がしっかりしているため、枠組みやシステム
377 の中から出にくいところがありますよね。

378 ○遠藤委員

379 そうですね。ただ近年は地域に開かれた教育課程と言われ、外から学校の方に力を貸し
380 ていただくことも出てきています。今までも地域と学校の連携は長く言われてきたのです
381 が、「学校のため」より、「地域の人材を育てるため」に手を差し伸べてくれていることも
382 大事だと思います。

383 学校と家庭と地域が、それぞれの役割で子どもを育成していくこと、その地域に育つ子
384 どもたちに、それぞれの立場の当事者として、携わっていくというところが必要だと思
385 います。

386 先ほどのお話で、「県立学校」になってしまうと地域との結びつきが難しいと自分は感
387 じていたので、今お話があった、個人としてその地域に携わる関わり方は、とても良いと
388 思いました。

389 ○小池会長

390 はい。ありがとうございます。他にいかがですか。八巻委員お願いいたします。

391 ○八巻委員

392 資料の3の対応案に関して申し上げます。私も教育現場で地域学校協働活動の必要性を
393 強く感じて参りました。その課題解決策のポイントとして、本県の教育局が取り組む学校
394 運営協議会、コミュニティ・スクールに新しい付加価値をつける方向があるというのが1
395 つ。もう1つは、各県立高校で発信しているスクール・ミッションについてです。「こん
396 な子どもたちを育てたい」「こんな未来の担い手を育てたい」というミッションを出して
397 いますので、これを活用して動くのも1つと思っています。この2点について申し上げま
398 す。

399 まず、学校運営協議会の活用ですが、これは当該校の教職員以外の声を直接学校運営に
400 反映させる取組です。私も必要な制度だと思って取り組みました。県内、すべての県立高
401 校に学校運営協議会が設置されていますが、その委員構成を拝見しますと、もう少し、地
402 域学校協働活動推進員と兼務できる人を、学校運営協議会の委員に選んで欲しいと感じて
403 います。この学校運営協議会では、当然、当該学校の役割や、目指す生徒像などが協議さ
404 れます。その中に、その地域学校協働活動の推進員がいれば非常に有効です。学校運営協
405 議会の委員でもあり、地域学校協働活動の推進員でもある方が、地域学校協働活動のコー
406 ディネーターになれば、活動の動きが早くなります。私も学校運営協議会のマネジメント
407 側にいましたので、これは非常に助かりました。

408 2点目、仕組みづくりに関連しては、スクール・ミッションについてです。これは神奈
409 川県の素晴らしい取組だと思います。他県では、全校というのは珍しく、学校長任せにな
410 りがちです。それを、教育局の生涯学習部門も含めてやられていることを高く評価してい
411 ます。この中で、スクール・ミッションが目指す人、人材像をはっきりと出しております。
412 その実現に向けた地域学校協働活動があり得ると思います。実際に県内でも、農業、工業、
413 商業などのいわゆる実業高校は取り組んでいます。校内での共通認識を作りやすいためか
414 と思います。

415 一方で、問題は、県内の上位のある進学高校のミッションが求める「国際社会でリーダ
416 ーとして活用できる人材を育成します」という人物像をどのように具体化するかというこ
417 とです。これを地域に限定することは難しく、限定する必要もないと考えます。人材的、
418 環境的、その他の資源的にも、子ども本位で堂々と外部に求めて良いだろうと思います。
419 これをアウトソーシングするために、スクール・ミッションの中に、スクール・ミッシ
420 ョンと同時にアウトソーシングするメッセージを出すべきだと思います。

421 ○小池会長

422 今、八巻委員から、資料の3ページの(3)「県立学校と地域住民が連携するための仕
423 組みづくり」の中に、学校運営協議会の委員の選定するとき、地域学校協働活動推進員とし
424 てお働きいただけるような方たちを、構成メンバーとして入れていく必要があるのではな
425 いかということでした。

426 また、神奈川県では県立高校におけるスクール・ミッションが、各校掲げられ、どのよ
427 うな人間を育てるのが明文化されています。例えば、将来のこの地域を担う人を作るこ
428 と、あるいは国際的な視野で活動できる高校生を育てることの他に、地域との連携によっ
429 て、学校地域が協働して、今を生きる高校生のさらなる成長を目指すこと、地域、大人社
430 会における人の力を得ていく、そういった文言を入れることが、連携のための仕組みづく
431 りに含まれていくのではないかという御提言でした。

432 ○八巻委員

433 スクール・ミッションの中に学校単位に限定しない、地域に限定しないアウトソーシン
434 グをしたいというスペシフィックーションを出すべきです。その校外発注を待っている組織
435 体が上場企業も含めてありますので、外出しさえすれば、協働に結び付くと思います。以
436 上です。

437 ○小池会長

438 発信することで、いろいろな方たちがそれについて呼応して、協力してくれるようにな
439 るという提言でした。では他にいかがですか。それでは夏井委員、お願いいたします。

440 ○夏井委員

441 先ほど伊藤委員がおっしゃったように、高校生が主体的に関わるが大変重要と思いま
442 すし、この会議の中でも同様の方向性が出ましたが、きっかけづくりも大事かと思いま
443 す。それが社会教育の現場にも、あり得るかと考え、公民館がそれなりの場を提供してい
444 くことは大事であると思います。また、学校においても、きっかけづくりが必要です。

445 私が前回もお話した寺子屋事業について、そこでのフォーラムが昨年度行われました。
446 市長はじめ教育長、担当が意見交換をした中で、今まで高校が入ってなかったのですが、
447 高校の校長先生に御出席いただきました。ぜひ高校生にも寺子屋事業をやらせたいと、寺
448 子屋先生は大体大人がやりますが、高校生が小学生のサポートする形で、高校の探究学習
449 事業としてやりたいと校長先生がおっしゃっていました。

450 寺子屋事業に関しましては、特別支援学校のろう学校も手話通訳をしながら授業のサポ
451 ートをするなど、地域の方々、ボランティアの方々に関わりながらやっている事例がござ
452 いますので、そういう形で広がっていくと良いなと思いました。

453 それから、私のはっきり申し上げなかったので申し訳ないのですが、5ページの⑥のと
454 ころの、川崎市教育委員会が主催で「各公民館」とありますが、川崎の場合は、「各市民館
455 (公民館)」と書いていただいた方がよろしいかと思います。お願いいたします。

456 それからもう1つ、地域教育会議も同じような形でやっています。その中でも、コーデ
457 ィネーターは有償でやっています。各中学校区に地域教育会議がありまして、子どもたち
458 との関わりの中でやっているのですが、コーディネーターは、有償です。謝礼もコーデ
459 ネーターには必要かなと思います。

460 ○小池会長

461 ありがとうございます。例えば、課題(3)「県立学校と地域住民との地縁的つながり
462 の希薄さ」のところ、黒ボツの上から4つ目5つ目、公民館は地域学校協働活動を直接的

463 に運営している事例が少ない、公民館による連携活動の取組があるが、単発的な活動に終
464 わってしまうということだけではなく、その下の「3」の「課題への対応案に関する意見」
465 の中で、公民館の中での、新しい動きとして県立学校と公民館が、探究型学習において連
466 携している事例があるとしますか。寺子屋事業を主催しているのはどこですか。

467 ○夏井委員

468 教育委員会がやっています。

469 ○小池会長

470 事例の方で、先ほどの⑥がありますので、それで良いということにしておきます。

471 ただ、事例として高校も手を挙げ始めています。それを加えましょうか。

472 ○夏井委員

473 川崎市の場合、政令指定都市で市立高校等の事例ですが、県内の学校でもこのような形
474 で実施しているという御紹介です。

475 ○小池会長

476 このままにしますか。ありがとうございます。では続きまして、野内委員。

477 ○野内委員

478 昨年に引き続き、こちらの審議会の委員とさせていただきます。よろしく申し上げます。
479 昨年からの案件をたくさん審議して参りました。先ほど伊藤副会長がおっしゃったよう
480 なことに近いのかなとは思いますが、校長先生のお話を伺い、また現場で活動をしている
481 中で、今、小中学校の先生方は授業を成り立たせることだけで精一杯なのではないかなと
482 感じています。そうした中でも、大和市においては自治会が開いている夏祭りにおいて、
483 県立高校の生徒会の子どもたちが、幼稚園以下、小中学生を対象に、遊びの道具などを自
484 分たちで作って、地域のお兄さんお姉さんとして、担当して行っている、そうした非常に
485 貴重な現場を拝見しました。

486 大和市においては前回もお話したように高校生が小学校の校庭で、小学生と触れ合い、
487 また小学生の子どもたちが高校生に憧れ、学んでいく取組をしているところを拝見しまし
488 ました。今、小中学校の先生方も非常に大変な中ではありますが、緩やかなコミュニティ・ス
489 クールの形が地域の自治会長やPTAの会長などによって育まれているところかと思いま
490 す。担い手不足も課題にはなりますが、そうした小中学校で、地域がその子どもたちを育
491 っています。そしてその子どもたちが結果的に県立学校等の高校生になると思います。

492 ですので、ここで総括のところは、小中学校で、地域で育まれてきた子どもたちが、ど
493 こかの県立学校に行かれるということですから、途切れているのではなくて、これはつな
494 がってきているという認識があることを記していただいたらどうかと思います。そして結
495 果的に小学校、中学校で生まれ、子どもたちが高校生になったときに、例えば、中学校や
496 小学校で児童会、生徒会をやらなかった子どもたちも、心機一転して高校に入られると、
497 やってみようと新たな挑戦の機会にもなり得ると思っていますので、そうした地域の支え
498 られて育ってきた子どもを、県立学校でも受け入れて、育てていただくべきかと思いま
499 す。

500 また、高校生は、地域の中で活動していく力が十分あると思います。小中学校と育つて
501 くる間に、その育みを意識した、授業内でのカリキュラムや、地域とのつながりが非常に
502 重要だということを書いただけたらと思います。

503 そしてもう1つ、コーディネーターには、支援学校や通信制学校など、様々な特殊な技
504 術がいますので、精通した方になっていただいて、小中高のコーディネーターの方
505 方にはぜひ有償でやっていただくことで、組織づくりが成り立っていくのではないかと思

505 います。小中学校は先生方に、できるだけ負担がかからないようなやり方を、そして高校
506 は、生徒たちが主体となれる環境づくりを、県の方に作っていただくことを要望いたしま
507 す。以上です。

508 ○小池会長

509 はい。ありがとうございました。県立学校の生徒になる前に、小中学校で、学校と地域
510 の中における連携による教育活動、地域で育てられた経験があれば、おのずと県立学校の
511 生徒になったときも、そういった地域の人たちと一緒に何かをやる意識が育てられていく
512 のだから、連続性があるということですね。単体で県立高校というよりは、それまでの育
513 ちの中での学びの体験や、地域全体の大人たちが子どもたちの育ちを支えてきてくれた、
514 教育活動の経験が裏にあることが、それを可能にしていくと書くべきであるという御意見
515 でした。

516 そしてもう1つは、先ほどから皆さんおっしゃっているように、「地域人材の発掘・育
517 成」というところでは連携を推進していくためのコーディネーターは、仮称であったとし
518 ても、専門性を持つ人を地域的に開発して、その人たちを認証していくシステムを作る、
519 ボランティアではなく、謝金の裏付けがある形で認証する形をお願いしていくべきだと、
520 3ページ(2)に書き加えたらどうかという御意見でした。

521 では、山崎委員いかがでしょうか。

522 ○山崎委員

523 私は、このまとめを読んだときに、時間的にどのことを早くやらなければいけないか、
524 また、少しゆっくりでも良いことと、優先順位を分けることも必要だと考えました。そし
525 て、これからの子どもたちに加え、今の子どもたちにも役に立つようなシステムができる
526 と良いと考えました。

527 そしてもう1つ、これは私の最近の経験なのですが、足柄刺繍という日本刺繍の流れを
528 汲む伝統的な刺繍をかなり長い時間やっけて、小田原西湘地区の方では、小学校4
529 年生になると、伝統文化としてそれを学習します。講師に頼まれて先日近くの小学校に行
530 ったのですが、子どもたちは「わぁ綺麗」というところから始まって、糸を作るところを
531 実演して見せたり、実際に絹糸を触ってもらったりする感触というのは子どもたちも感動
532 するようです。4年生でそれを勉強して5年生になったら、実際にお稽古をしたいと言っ
533 てきた子どももいました。

534 先日教えながら考えていたのですが、地域性として、こんな勉強や体験ができるという
535 ことが、中学校や高校でも伝統文化の継承として、取り上げると良いのではないでしょ
536 か。小中学校と地元で育った子どもたちが、地元の高校に行く場合があります。県立の高
537 校もいくつかあるのですが、その中には当然、地元の子もたちも行きます。県立高校に
538 は子どもたちがいろいろなところから来るという、課題もあると思うのですが、地元の子
539 どもたちも行くという点を考えたときに、高校に行っても伝統文化に出会えたら、地域に
540 生活してきたことを誇ることにつながるのではないかと思います。また、新しく来た人た
541 ちが、またそこで感銘などを受けていただいて、「ここは良いところだから住みたいな」
542 ということにつながって、壮大なのですが、帰ってきてくれれば良いと考えました。それ
543 からその子どもたちが、いろいろな場面にぶつかったときに、伝統文化等は、気持ちの癒
544 しになると思います。情操的なものも育てていけば、サイクルとしてはこれ以上のことは
545 ないのかなと、先日小学校に行ったときに感じました。

546 ○小池会長

547 そうですね。ありがとうございます。今おっしゃってくださったことは伊藤委員や野内
548 委員の御意見とつながるものがあります。今、青少年教育でよく言われるのが、青年期や
549 少年期の方は、大人になることの目的を果たすため、単なる勉強だけして、良い大人にな
550 るという目的のためだけに生きている人たちではない。少年期や青年期には、その時期の
551 特性、その時期を豊かに自分らしく生きていくということや、かけがえのない時間として
552 成長していくことを考えなければいけない。勉強や、将来の大人社会にうまく参入するた
553 めに高校に行くことではなく、地域の伝統や、その地域の中であって文化を育み、そして
554 知的に学ぶというような側面を形づくる時期だということですよ。小学校は6年間ある
555 ので、勉強だけではなく幅広くいろいろなきっかけを学ぶ場所で、それがまた中学校、高
556 校と繰り返すということが大事だという御意見でした。

557 東京の有名大学が今一番気にしていることとして、予備校で入試に良く受かる、そつな
558 く知的な鍛錬を積み上げてきた人たちが入ってくるわけですが、文化が雑多でないという
559 点への危機感があります。全く違う発想や全く違った生活圏から来る人たちが、出会い、
560 議論することで、エントロピーが高まって行って、新たな創造性が生まれるというところ
561 を大事にしなければいけないので、地方から学生を招き入れたり、オープンキャンパスで
562 地方に行ったりしています。

563 そういった意味では、総括のところに「県立学校と地域の連携」とありますが、これは
564 学校という組織と地域のつながりをうまく考えて、どのような教育をするかということよ
565 りも、そこで学ぶ生徒たちをどう育てたいのかということと考えていくこと、そして、生
566 徒たちが、社会の中にある大人の力を借りながら、主体的・体験的な、豊かな学びを形作
567 っていくということをコーディネートしていかななくてはいけないこと、それが学校、
568 地域との連携の最終的な目的なのではないかという辺りを書いて、それを枕詞にしながら、
569 今回の総括に移っていくと良いですね。

570 そして最終的には学校の枠を超えて、本人たちが自分の力でいろいろなところに行って、
571 学び、考え、そして活動し問題解決していけるような能力を形作っていく。そういった教
572 育を私たちは目指していくし、それをサポートしていくことが学校と地域との連携を考え
573 る今回の審議会の題目だったのではないかとまとめる。伊藤先生、異議はありませんで
574 しょうか。

575 ○伊藤副会長

576 私はその高校生の立場を大事にしたいと思いますが、見回してみると、受験勉強で一生
577 懸命ですよ。そういう現状と、今の話を、どう結び付けられるでしょうか。

578 ○小池会長

579 理想としてはあるが、実態とは乖離しているところをどうするかですね。

580 ○伊藤副会長

581 先ほどのスクール・ミッションの話が大きなポイントではないでしょうか。高校が目指
582 している人材育成に合う地域の資源があれば、うまくかみ合うと思います。少なくともス
583 クール・ミッションに共感して子どもたちは入学してきて、親も納得して入学させていて、
584 そこに共感できる地域の資源がはまれば良いと思います。

585 ○小池会長

586 学校の養成方針を初めのきっかけとしながら、生徒個人としては違うものも育てていけ
587 ることを期待したい部分もあります。そのところはもう少し考えていかなければいけな
588 いと思います。

589 時間も限られてきましたので吉原委員、御意見を承りたいと思います。

590 ○吉原委員

591 今、私たちのところで地域学校協働活動をやっていますので、資料を読んで学ぶものが
592 多く、今日どんなお声が聞けるのか楽しみに参加させていただきました。茅ヶ崎市には、
593 小中高が重なっている地域が2か所あり、そこに公民館もある地域があります。小中高と
594 公民館と一緒に事業をすることが、今までできていたのですが、本当に残念ですがコロナ
595 禍によって、かなりのものが無くなりました。今少しずつ復活をさせて、本当にそれに期
596 待をしています。

597 いずれにしても、大人が何となく意図的に機会を作って、それに子どもたちが自分で興
598 味を持つことが大事かなと思います。大人が自分たちでやってしまうのではなく、声を上
599 げるけど、やるのは児童、生徒、高校生、子どもたちに任せる形をとり、失敗があっても
600 認めてやっていく形をとることが必要かなと思います。中高生ぐらいになると、防災につい
601 てもかなり力がありますので、地域の中では、中高生にどんどん出ていただくような形を、
602 取っていただくようお願いをしています。今年度も、10月に中高生が、部活単位で先生
603 が引率する形になろうかなと思いますが、最初はそれでも良いと思います。それが先ほどお
604 話があったように、地域でいろいろなものを経験して大人になって、戻って今度リーダー
605 になってやってくれるような子どもたちが出てくれば、ありがたいなと思っています。

606 茅ヶ崎市には子ども会の発祥のジュニア・リーダーズ・クラブがあり、子どもたちが社
607 会人になっても、後輩たちにいろいろなものを教えて地域の中で、自分の力を発揮してい
608 ます。子どもたちの力を発揮する場は大人が意図的に作っていかなければ、子どもたちが
609 出てくれないのかなと思っています。

610 茅ヶ崎市に県立の養護学校があり、その生徒たちがすぐ近くの、コミュニティーセン
611 ターの花壇清掃に参加したり、作品展示をしたりしています。生徒はなかなか自分では出
612 ませんが、先ほど申したように、大人が意図的に場を作ることは大事だと思います。

613 それともう1点、茅ヶ崎には神社がたくさんありまして、そこには必ずおみこしがあり、
614 太鼓があります。つい先日、浜降祭という行事があり、小学生、中学生、高校生もしくは
615 大人になっても太鼓を叩くような、伝統芸能を通して地域に愛着を持ってもらえる。とて
616 も良い形で、その子たちが今度リーダーになっていける土壌を、大人たちが作る、温かい
617 目で見えてあげることが大事だと思います。

618 本当に私はとにかくとても素晴らしくまとめていただきましたので、これを今度逆に、
619 私自身が参考にさせていただこうかなと思っています。ありがとうございます。

620 ○小池会長

621 大人がきっかけを作り、そこに子どもたちが主体的に参加して、地域としてまた育て
622 いくというお話でした。良い実践事例があれば、参考資料の中に該当するものとしてお加
623 えいただくことも可能です。実践事例、具体的なものがあれば、最後のまとめの中に組み
624 入れさせていただきたいと思いますので、御紹介させていただきたいと思います。よろしくお願
625 いいたします。それでは大橋委員、よろしくお願いいいたします。

626 ○大橋委員

627 神奈川県経営者協会の大橋と申します。民間の企業としてできることとして書いてあり
628 ますが、資料自体はこれでよろしいと思っています。

629 出張授業、工場見学など、例えば出張授業では先生から後から聞くと、外部から来てい
630 ただいた方の話の方が、生徒の方々は真剣に聞いてくれるといいます。私の会社でいうと

631 食育が中心になりますが、食を通じて、食の大切さをお話させていただいております。あ
632 と神奈川県ではないですが、当社は群馬県にも工場がある関係で群馬県立女子大学に、私
633 が「リーダーから学ぶ企業経営」という題名で講義をしに行きました。グローバルな話を
634 するとすごく食いついてきた感じがします。民間企業としてはそういったことができると思
635 います。

636 余談ですけども、一昨日、高校野球の神奈川県の決勝がありました。県立高校がもう少
637 し強くなると、地域が盛り上がるのと思っています。神奈川県ではなかなか高い壁なの
638 でしょうけれども、ドラマで「下剋上球児」というものがあって、小さな県立高校が甲子
639 園に出るまでの物語でした。非常に地元と連携していたところがありました。神奈川県で
640 言うと、大和南高校の女子バレーボール部が強くて、タウンニュースに乗ると、市民とし
641 ても嬉しいです。一番効果があるのが野球かと思しますので、そういったところの強化も、
642 県立学校として、やって欲しいなと個人的には思います。余談でございます。

643 ○小池会長

644 地域と学校側で、本当に盛り上げるためには、スポーツ振興はいかがでしょうかという
645 御意見でした。では、後藤委員お願いいたします。

646 ○後藤委員

647 初めて何かするというのは負担でもあり、やりがいでもあると思います。それを担って
648 くれる方がいらっしやれば良いのですが、立候補でやる方がなかなかいない地域もあると
649 思います。ですが、声をかけたりすると、意外と担ってくれる方もいらっしやいます。

650 地域の方の情報は大事で、「あの人ならやってくれるよ」、「そういう企業に勤めてい
651 た部長で、まとめていた方だよ」という方に声をかければ、結構やってくれるとは思いま
652 す。そういう方を見つけて、コーディネーターを担ってくれば良いなと思いますが、地
653 域によっては大きな格差があります。例えば、海老名は駅前だとすごく発展していて、若
654 い方が多い。マンションも建っていて、地域が希薄になってきている。そうすると、やは
655 り共働きで、担ってくれる方が本当にいないです。受け皿として、今、数年前から企業が
656 代行をやるという声も挙がっています。

657 ○小池会長

658 P T A のですか。

659 ○後藤委員

660 P T A のアウトソーシングです。委託して、企業の人たちが仕組みを作ってくれるもの
661 です。

662 ○小池会長

663 みんなを呼んで、活動を一緒にやることの委託ですね。

664 ○後藤委員

665 そういうところに、本当にどうしても担い手がいない場合をお願いしたり、数年で土台
666 を作って、運営方法を見せたり、引き継いだりすることもできるのかなと思います。

667 本当にボランティアには限界があると思います。毎年、探すことが大変です。近年、委
668 託しても良いのではないかという話は、保護者の中でも上がってきています。

669 ○小池会長

670 そうですね。遠藤先生いかがですか、そういう実態はありますか。

671 ○遠藤委員

672 大和市では、私の知る限りでは中学校で1人、P T A 業務を担っていただく方をP T A

673 が雇用する例は、あるというのは聞いたことがあります。全部外注ではなくて、その業務
674 を一部担う形で、P T Aが雇うことは聞いたことがあります。

675 ○小池会長

676 先ほどから出ているように、子どもたちの支援をしてくれる人は、親でなければいけな
677 いという時代ではなくて、今言った地域人材を発掘して、コーディネーターという形で、
678 良い方たちを有償でお招きして、それを行政が認証していく。P T Aでさえお金を出して
679 委託する時代ですから、新しい形で、地域の人たちや、企業、社会の中にある人たちを、
680 県立学校の今を生きている生徒の成長、将来の夢を実現していくために支援してくれる人
681 たちを派遣していくシステムとしては、広く活用していくべきではないかということです
682 ね。ありがとうございます。伊藤先生、先ほどの総括の枕詞はどのような方向でまとめた
683 ら良いでしょうか。

684 ○伊藤副会長

685 小池会長が始めの方に言うてくださった言葉で良いと思います。子どもたちがその地域
686 について学ぶ機会を設けたら良いという発言があったと思いますが、その辺りはどこに書
687 きますか。

688 ○小池会長

689 子どもたちが地域について学ぶ機会を、もっと増やしていくべきであると、先ほど何件
690 か御意見をいただきました。県立学校と地域住民が連携するための仕組みになるでしょ
691 か。地域について学ぶ機会を学校の中に増やすということを（3）のどこかに書いてくだ
692 さい。

693 ○八巻委員

694 全体的な議論をお聞きして、混乱があるかと思います。コーディネーターとファシリテ
695 ーターの役割の混同です。例えば、P T A講演会の講演者との調整はコーディネーターで
696 す。企業やN P Oの方が講演者や授業者で、彼らはファシリテーターです。

697 学校教員の多くにサプライチェーン管理に関する理解不足があると思います。これは原
698 材料から製品を消費者に届けるまでの生産フロー全体を管理することです。どのように調
699 達され、どのような物流で現場に届くのか、説明するのはファシリテーター、その人を探
700 すのがコーディネーターです。そこを区分すると、コーディネーターの精神的負担は小さ
701 くなります。

702 コーディネーターは地域活動のノウハウを持つ人を探す仕事で、必ずしも活動のノウハ
703 ウを必要としません。ファシリテーターの力と意欲を持つ方はたくさんいます。

704 ○小池会長

705 多分皆さん分かっているかと思いますが、ファシリテーターは学びそのものを牽引して
706 いく人です。1つのプログラムに対して、専門家の、例えば企業人が来て、それを生徒た
707 ちの前でお話をして、その学びをみんながわかるように牽引していくのがファシリテー
708 ー。その人たちをどういったところから学校に紹介していくのか、ニーズを聴取して、学
709 校に結びつけていくことができる人たちがコーディネーターです。そのつながりの区分は
710 明確にしましょうということでした。

711 そしてコーディネーターの人たちに行政は認証を与えて、できれば有償で、地位や、怪
712 しい人ではないことを担保していただいた上で、いろいろな形で良い人たちを供給してい
713 くようなコーディネートしてもらうことが必要であると、今回お話をいただいたというこ
714 とで整理をさせていただきたいと思います。

715 まとめの時間に差しかかって参りました。最後にこれだけは付け加えて発言をしておき
716 たいことがあれば、御意見賜りたいと思います。

717 ○遠藤委員

718 3ページの(2)の「地域人材の発掘・育成」の2つ目の中黒の部分「伝統的な教師像」
719 とは、具体的にどういうものを指しているのかということと、併せて、伝統的な教師像と
720 学校特有の風土を更新していくということは、現状では、説明が足りないように私は受け
721 取りました。この2点は別々のことで、伝統的な教師像というのは、外部の方の受け取り
722 方だと思います。学校特有の風土というのは、我々が改善していくべき部分だと思います。

723 また、頭のところで、採用のうち民間企業経験者を採用していくと、これが、伝統的な
724 教師像、学校特有の風土を更新していくことと直結するかということも気がかりです。こ
725 の記述は、かなり盛り込みすぎではないかと感じます。あとは重ねてになりますけれども、
726 伝統的な教師像を認識されているのは、世間の皆さんの方だと思います。そして学校特有
727 の風土、これを改善しなければいけないことが我々の課題だと思いますので、ここをもう
728 少し整理していただいた方が良いのかなと思いました。

729 ○小池会長

730 地域人材を発掘していくことの可能性の1つとして、教員採用の中に、こういったこと
731 に関心がある、あるいは経験がある方を広く、民間企業も含めて採用していく、そういう
732 言い方が1つあるかと思います。これだと民間企業経験者を採用すると言ってしまうこと
733 になるので、こういった地域人材を広く求めていくということの1つの方策として、教員
734 採用試験等において、多様な経験をしている方たちを採用していくということも検討する
735 という書き方で、「それに併せて」以下の部分は、別立てにした方が良いでしょう。書
736 いた方が良いかどうか、今の御意見を聞いていて、検討するべきかと思います。

737 ○遠藤委員

738 そうですね。私は民間企業の経験者の方が学校現場に入っていくことは賛成なのですけ
739 れども、ただ後段の部分に、大きなものがさらっと書いてあります。伝統的な教師像とい
740 うのは、やっぱり変えていかなきゃいけないですが、変えていく周知をしていただくのは、
741 学校単独ではできません。これがどうしても必要なことであれば、そのための手立てとし
742 て必要なことを訴えていただきたいと思いますし、地域人材の発掘・育成について課題であるな
743 ら、学校の方に指導していくようなところが、もう少し丁寧な説明があると良いと感じま
744 す。

745 ○小池会長

746 書きすぎだということで、なくしてしまうということも1つかと思います。学校の地域
747 連携の中に、牽引していく側の人として、教員の中にいろいろな経験をした方たちを招き
748 入れていき、それを通して地域連携を進めていくということでしょうか。何のために広い
749 教員採用を行うか、枕詞を書き足す形が良いです。

750 伝統的などという部分は、感覚的には多分わかるのだと思いますが、閉鎖的だと思っ
751 ちゃるのではないのでしょうか。

752 ○八巻委員

753 私は、教育公務員として民間企業などから採用する場合、それに合わせて「学校運営ビ
754 ジョンに基づいた学校経営や、教職員評価システムの取組が必要」と書くことを躊躇して
755 この記述になったと類推しました。

756 ○小池会長

757 そこに踏み込むことが地域人材を発掘につながるかというと、苦しいですね。いろいろ
758 な解釈が成り立ってしまうような気がしますから、「それに併せて」以下は削除でよろ
759 しいのかもしれないですね。

760 ○山崎委員

761 1つだけ、前書きのところでは、1行目から、目的としては地域全体で子どもたちの学
762 びや成長を支えるとともに、学校を核とした地域づくりを目指すと書いてあります。最後
763 から4行目のところに、生徒の自己肯定感の高まりだけではなく地域の活性化なども期待
764 されるが、一方で課題もあるとも出ています。その次の課題のところの3個目のところと、
765 4ページの総括で「地域と学校が相互にWin-Win」とまとまっていますが、子どもたちの成
766 長についての記述はどうなりますか。

767 ○小池会長

768 先ほどから、学校と地域のシステム論ではないことについて意見が出ています。先ほど
769 おっしゃってくださっていたことを枕詞にして、総括のところに入れていくことでお願い
770 することになります。

771 ○山崎委員

772 ありがとうございます。

773 ○小池会長

774 ちょうど時間になりました。それでは今日も闊達な御意見を、また貴重な御意見を、今
775 日初めての御出席の委員からもいただいたことを、本当にお礼申し上げたいと思います。

776 それでは、第4回生涯学習審議会をもちまして、この第16期の審議会は、終了となります
777 。本当にこれまでの御審議ありがとうございました。